



後援会の変わらぬご支援に感謝します。

学校法人ルーテル学院 理事長 大柴 譲治

3月21日の理事会で「来年度から大学・大学院の学生募集を停止する」という苦渋の決断をいたしました。驚かれた方も少なくなかったことでしょう。「断腸の思い」「『痛魂』の極み」でした。大学新入生の定員未達が3年続く中、最後まで他の可能性も探りましたが、残念な結果となってしまったことを皆さまにお詫びいたします。しかし同時に、総合的に見ればそれは現時点での最善の決断であったと考えています。

今年は1964年に大学の設置が認可されてちょうど60年目、1969年に鷺ノ宮から三鷹へと移転して55年の節目となります。篤

い祈りの中に始められた大学の設置でした。これまでに4000人の卒業生を社会に送り出してきましたが、現在在学する学生の卒業をもって一つの社会的な使命を終えることになります。この決断が主の御心に適いますよう祈ります。

3月7日の卒業式でも申し上げたことですが、「学位授与式」のことを英語では“Commencement”と呼びます。“Commence”とは「開始する、着手する、第一歩を踏み出す、新しい幕が上がる」という意味の語です。

私自身も4月2日の入学式に「新入生の一

人」として参列しました（大学院博士課程）。年齢や距離などを考えると我ながら「なんと無謀な」と思います。しかし昨年5月より、母校のために「今の自分にできることは何か」と考えてこの結論に達しました。石居学長の切なる願いに応えて一人でも学生を増やしたいと思ったためです。「リカレント教育」という語や「始めることさえ忘れなければ人は老いない」（ブーバー）という言葉にも背中を押されました。理事長の名刺には「90人に、90の物語」と刻まれています。その言葉の通り、一人ひとりの人生には「神さまのドラマ」とあると信じています。



今、新しい幕が上がりました。理事会は最後まで学生と教職員のために力を尽くしてまいります。これまでの後援会の皆さまのルーテル学院への貴いご支援に感謝すると共に、これからも変わらぬお支えをお願いいたします。

地区世話人代表の交代

ルーテルの母「港」の灯を！



「喜び」を持って、細やかな奉仕ができ、「感謝」を持って信頼する方へバトンタッチすることになりました。喜び——それは、全国の教会・教育の場で、主に託され牧会してくださる牧師・教職を育てる神学校を後援できるという大きな恵みです。感謝——それは、後援会活動を通して推進委員会・事務

局の『輪』の中で、実に多くの友人にたくさんのお気づきと学びをいただきました。楽しい教会生活でした。

私は、日本ルーテル神学校の『魂』を、「神学・奉仕・宣教」と捉え、何ができるか、と考え続けたものの所詮、小さき者にすぎない老人信徒。エラそうなことはできませんでしたが、夏の炎天下、バザーで販売し献金するため、黙々と「ゴーヤ佃煮」を15年間作

日本福音ルーテル博多教会 日笠山 太吉

り続けてくれた妻の汗に教わりました。これを受け入れ支えてくださった教会員の温かな支援に感謝いたします。

いま、大学・神学校は、その歴史の中でも極めて重大な局面にあります。牧師・教職にとって心の母校であり、祈りの母港。牧師・信徒・後援会・卒業生が知恵と力を生み出し、母港の「灯」を守り通したい！と心を込め祈念しています。

新しく2名の方が地区世話人代表をお引き受けくださいました。

東海教区 澤田 小枝子氏（J挙母教会）
九州教区 徳永 武雄氏（J博多教会）

教会世話人と地区世話人代表の働き

全国のルーテル教会では各1名～3名の「教会世話人」が選ばれ「教会とルーテル学院との架け橋」としてお務めくださっています。

「地区世話人代表」（12名）は各地区ごとに教会世話人の方々のリーダーとなり、後援会活動を推進してくださっています。（事務局）

今年3月末の理事会・評議員会で大きな決断が下されました。後援会の方々、並びに教会員の方々も、大きなショックを受けたことと思います。

しかし、4月からは新入生が大学に通い始め、今いる学生たちがきちんと良い環境で教育を受け続け、最後までそれを全うさせることが、ルーテル学院大学の責任になります。日の出の勢いがあるときは、自然と応援してくれる人は集まりますが、閉じていくものを最後まで応援し続けることは、簡単にできることではないでしょう。



後援会を応援します！

日本ルーテル教団 札幌中央ルーテル教会 牧師 吉田 達臣

マルコによる福音書15章に、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が出てきます。イエスさまの十字架を担がされた人です。兵士たちが無理やり担がせたと書かれています。しかし、「アレクサンドロとルフォスの父」という呼び名は、おそらくシモン自身もその子どもたちもその後キリスト者として歩み、教会の中で名前が知られた人になったのだと思われます。最初は巻き込まれるように十字架を担ったシモンは、その後自らの意志で、自分の十字架を背負ったのだと思われます。

イエスさまが受難の道を全うされたように、ルーテル学院大学と共に、後援会も最後まで道のりを全うされることと思います。残された道のりは、今まで以上に難しい道であり、後援会の支えも今まで以上に必要とされる局面になります。いつの日か、復活の道が与えられることも秘かに祈りながら、私も最後まで後援会を応援し続けていきたいと思っています。

社会で活躍中のルーテル卒業生

ルーテル学院からいただいた宝物

神学科キリスト教社会福祉コース、大学院社会福祉学専攻修士課程卒業 竹内 もみ

私は高齢者の総合相談所「地域包括支援センター」に勤めております。

ルーテルに入学してから「この小さな大学は世界中のルーテル教会（後援会）のお支えで成り立っている」と聞き、驚きとともに大きな感謝をおぼえました。学生時代に「社会資源で無いものはあなたが創りなさい」と教わり「そんなことが私にできるのか？」と当時は思いました。

それから二十数年後、地域の中に高齢者の体操やお茶飲みグループを立ち上げたり、そのための会場をみつけだしたり「私にも創れました」と報告したいですね。さらに大学院で再度、就学の機会をいただきました。さまざまな経験を積んだ社会人も集う大学院で

は多くの刺激を受け「この仕事を全うしよう」と再確認しました。

ルーテル学院で得た宝物は一生の仕事、同じ価値を持つ一生の友人と恩師。これらは今後、大学の形が変わったとしても、ずっと変わりません。

みなさまにも在校生と教員を応援し、お支えいただけたら幸いです。



後援会ニュースがリニューアルしました!!

ユニバーサルデザインのフォントや配色を採用しました。
より読みやすい紙面をめざしてまいります。